様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２３年４　月 20 日現在

機関番号：12601
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2008～2011
課題番号：20520211
研究課題名（和文）ウィリアム・ブレイクと柳宗悦に関する比較文学比較文化的研究

研究課題名（英文）　A Study of William Blake and YANAGI Muneyoshi in Comparative Literature and Culture

研究代表者　佐藤　光（SATO　HIKARI）
東京大学・大学院総合文化研究科・准教授
研究者番号：80296011

研究分野：英文学
科研費の分科・細目：文学　英米・英語圏分学
キーワード：英文学、比較文学、ブレイク、柳宗悦、イギリス

１．研究計画の概要

本研究の目的は、インド、英国、日本という三つの異なる地域の間で生じた異文化交流の諸相を、具体的なテクストに基づき、比較文学の観点から考察することにある。研究対象として、18 世紀英国の詩人・画家・銅版画師であるウィリアム・ブレイク（1757-1827）のテクストと、ブレイクの影響を強く受けた近代日本の思想家である柳宗悦（1889-1961）のテクストを取りあげる。両者のテクストをそれぞれの歴史的文脈において分析し、その影響関係を実証的に探ることによって、異教がインドを出発点としてブレイクに受容されて多神教的なキリスト教を生み、さらに柳へ流れ込んで多文化共生の思想として結実するに至った過程を明らかにする。

２．研究の進捗状況

2008 年度と 2009 年度は、ブレイクと「東洋」に関する先行研究、ブレイクとウィリアム・ヘイリーに関する先行研究を総括し、ブレイクがヘイリーの屋敷を去ることを決断する 1803 年までに刊行されたインド関連の出版物のうち、ヘイリーの蔵書目録に掲載されている文献を選び出し、ブレイクのテクストとの関係の有無を検討した。

また、ブレイクとインドの関わりを検証するために、次の三つの作業を行った。第一に、ウィリアム・ジョーンズ（1764-94）やトマス・モリス（1754-1824）らがどのような観点からインドの文化、宗教等をキリスト教文化圏に紹介しようとしたか、という問題を設定した。彼らは、キリスト教中心主義の立場から、ヒンドゥー教を堕落した宗教とみなしたのか、それとも、世界に散在する多くの宗教のうちの一つとして異教を扱ったのか。この問題と取り組むためには、ジョーンズやモリスのテクストだけでは不十分であり、彼らの著作がロンドンでどのように受容されたのかを調べた。第二の作業として、18 世紀ロンドンで出版されていた文芸批評雑誌に掲載された書評記事のうち、インド関連の文献に関わるものを選び出しその内容を調査した。これらの雑誌が個々に政治的な偏向を備えていたことは既に周知の事実であるので、保守派の立場、革新派の立場を勘案した上で、同時代のインド関連の文献に対する受容の諸相を考察し、書評記事から逆照射するかたちで、ジョーンズやモリスのテクストがもつ歴史的意義を確定した。これらの作業を済ませた後、第三の作業として、ブレイクが独自のキリスト教を作り上げていく過程において、異教との接触がどのような意味を持ったのかを考察した。

2010 年度は、柳宗悦がブレイクをどのように理解したのかを調べるために、柳が参照したブレイク研究書の洗い出しを行った。また、明治・大正期のブレイク受容史における柳の著書『ヰリアム・ブレーク』の位置づけを測定するために、ブレイクの影響を受けて創作活動をした詩人の一人である三木露風について調査した。ブレイクとの影響関係が想定される詩人や作家は多く存在するので、個別事例の収集を開始した。あわせて、明治・大正期のブレイク受容史を再確認する作業に着手した。

３．現在までの達成度

②応募時の研究計画に従って順調に進んでいる。ただ、柳のブレイク理解を適切に評価するためには、同時代のブレイク理解の諸相を調査する必要があり、この作業には相当時間がかかるように思われる。あらためて研究計画を立てて、科学研究費補助金の助成を申請したい。しかしながら、本研究計画は2011 年度に一定の完成を見る予定である。

４．今後の研究の推進方策

2011 年度はブレイクの影響を受けて創作活動を行った千家元麿について調査すると友に、柳宗悦著『キリアム・ブレ―ク』を当時のブレイク移入史の文脈において一定の位置づけを与えたい。また、その予備作業として、明治・大正期のブレイク受容史を調査する予定である。

５． 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 3 件）

①佐藤光「なぜ「煙突」を訳さなかったのか――山宮允訳『ブレーク選集』と明治・大正期のブレイク理解」、『イギリス・ロマン派研究』第 35 号（イギリス・ロマン派学会、2011 年）、1-14 頁。

②佐藤光「ウィリアム・ブレイクから三木露風へ――『無垢と経験の歌』の変奏曲――」、『比較文学』第 53 巻（日本比較文学会、2011 年）、7-20 頁。

③佐藤光「エラズマス・ダーウィンとウィリアム・ブレイク再考」、『超域文化科学紀要』第 14 号（東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻、2009 年）、5-18 頁。

〔学会発表〕（計 7 件）

①佐藤光「Blake: "The Chimney Sweeper" ――「無垢」と「経験」を考える」
第 29 回イギリス・ロマン派講座（東京、早稲田大学）、2010 年 6 月 19 日

②Hikari Sato, 'A Digitally Disintegrated Reception of Blake?-The Case of "Yameru Sobi" or "The Sick Rose" by MIKI Rofu', Digital Romanticism: An International Conference, (University of Tokyo), 2010 年 5 月 20 日-21 日

③ Hikari Sato, 'William Hayley and Natural History: Ballads Founded on anecdotes relating to animals (1805)', The 11th biennial International conference of the British Association for Romantic Studies: Romantic Circulations, (Roehampton University, UK), 2009 年 7 月 23 日-26 日

④佐藤光「Erasmus Darwin, The Botanic Garden（1791）から William Blake へ」、イギリス・ロマン派学会第 34 回全国大会シンポジアム「エラズマス・ダーウィンの系譜とイギリス・ロマン派」（徳島、四国大学）、2008 年 10 月 11-12 日

⑤佐藤光「William Blake とインドの連結点－William Hayley が果たした役割」、日本比較文学会東京支部例会（東京、日本大学）、2007 年 9 月 15 日

⑥Hikari Sato, 'Blake and Neoplatonism Reconsidered', Blake at 250: Celebrating the 250th Anniversary of the Birth of William Blake (University of York, UK), 2007 年 7 月 30 日-8 月 1 日

⑦Hikari Sato, 'Liberation and Intolerance - Rereading of Blake's Europe', The British Association for Romantic Studies/North American Society of Studies in Romanticism 2007: Emancipation, Liberation, Freedom, (University of Bristol, UK), 2007 年 7 月 26 日-29 日

〔図書〕（計 1 件）

① Hikari Sato, 'William Blake and Multiculturalism: Between Christianity and Heathen Myths', Ph.D. thesis, Birkbeck College, University of London

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕